

# 第5回国際保健医療行動科学会議

## 第2回アナウンスメント

---

### 目次

---

開催にあたって.....	2
会議のご案内.....	3
会議の概要.....	4
プログラム.....	5
分科会発表要旨募集テーマ.....	9
発表要旨募集のご案内.....	10
参加登録のご案内.....	12
会場のご案内・交通アクセス.....	14
実行委員会名簿.....	15

## 開催にあたって

---



国際保健医療行動科学会議は、第一回大会が1988年8月に米国・ハワイで「Traditional & Modernity in Health Care」というテーマで開催され、1991年9月日本・東京で2回大会「The Health Care Systems how should it be in 21<sup>st</sup> Century」、1996年9月日本・東京で第3回大会「Crisis Behavior toward Growth & Solidarity」、2001年8月日本・神戸で「Integrated Approaches to Health」をへて、今回は

2006年8月のタイ・バンコクで、第5回国際保健医療行動科学会議の開催を迎えることになります。テーマは「健康と環境をめぐる教育 統合医療と環境教育」です。生命や健康をめぐる外部環境の問題は、現在さらには将来に向かってますます深刻な状況にあり、また過去の環境の問題も私達の遺伝子や記憶を通じて私達の内部環境の問題をつくり、現在の外部環境問題の克服を困難にする原因となっています。

行動科学は、分子、細胞、組織レベルから個人、集団、社会、地球、宇宙レベルまで、生命と環境の相互作用を総合的に捉え、実証的、体系的に解明し、私達のもつ問題解決に貢献しようというものです。

第5回会議では、生命と環境の相互作用としての健康問題を教育という観点から、その解決を行動科学的に検討しようとするものです。

本会議において、さまざまな分野や国々からのグローバルで多彩な討議が出来、教育的解決の効果的方途が探求できることを期待しています。

2006年2月23日

第5回国際保健医療行動科学会議会長

宗像 恒次

## 会議のご案内

---



この度、第5回国際保健医療行動科学会議を、2006年8月16日(水)~21日(月)に、タイ・バンコク プラナコーン=ラジャバト大学において開催致します。今回は「健康と環境をめぐる教育—統合医療と環境教育—」というテーマのもと、記念講演、基調講演、シンポジウム、サテライト・シンポジウム、研究発表・ポスター発表、ワークショップ、エクスカ・ジョン、オプショナル・ツアーを企画しております。

今日、科学技術の発達による自然や社会の急激な変化とともに、私たちの「健康と環境」の状況も大きく変化しつつあります。保健医療をめぐるさまざまな生命の課題に直面しています。他方、地球環境問題においては、環境汚染状況がますます広汎化し深刻化しており、地球温暖化、酸性雨、森林伐採、砂漠化、稀少種の減少、生物多様性の減少などの課題があります。これらの健康と環境の課題を解決するためには、ホーリズムと統合の視点から「いのちと環境をめぐる教育」が必要となります。

21世紀の「健康ないのちと健全な環境」を維持していくために、国際会議によるグローバルな視野よりホリスティックな「統合医療と環境教育」について研究・討議を深め国際交流を進めたく存じます。

本会議のテーマは、環境教育に加えて、従来議論されてきた「ヘルス・プロモーション」「QOL(クオリティ・オブ・ライフ)」「自己決定」「セルフケア」「医療倫理」「ターミナル・ケア」「グリーフケア」「すこやかな生」「健康への自己決定」「全人的医療」「ナラティブ」などのキーワードを踏まえたうえで、日本だけでなく国際的な視野から保健医療行動科学を学際的な視点から議論し発展させることを目指しています。

本学会は、1986年設立より現在までに4回の国際会議を主催してきました。ここで歴史的な変遷を振り返っておきますと、第1回国際保健医療行動科学会議「ヘルスケアにおける伝統と現代性 A Transcultural Discussion」(1988年、於：Hawaii / Pacific Beach Hotel, Honolulu)、第2回会議「21世紀のケアシステムを提言する The Health Care Systems, How Should It Be in 21st Century?」(1991年、於：東京 / 上智大学)、第3回会議「危機と行動 成長と連帯 Crisis Behavior toward Growth & Solidarity」(1996年、於：東京 / 上智大学)、第4回会議「『健康』のための統合的アプローチ Integrated Approaches to Health」(2001年、於：神戸 / 甲南大学)というテーマが取り上げられ、世界各国からの参加者たちによって保健医療関連分野からの行動科学研究・教育に関する討議が重ねられてきました。

今回、さらに保健医療分野における「健康と環境をめぐる教育」のテーマを国際的にとりあげ、自然科学・社会科学・人文科学のそれぞれの分野から統合的な議論を展開したく企画しております。また、エクスカ・ジョンでは、ビハーラ(終末期患者のための仏教系医療施設)への訪問を予定しております。

多数の皆さまの御参加をお待ちしております。

第5回国際保健医療行動科学会議  
大会実行委員長 谷口文章

## 会議の概要

---

- |   |        |  |
|---|--------|--|
| 1 | メインテーマ | 健康と環境をめぐる教育 - 統合医療と環境教育  |
| 2 | 会 期    | 2006年8月16日(水)～8月21日(月)   |
| 3 | 会 場    | タイ・バンコク<br>プラナコーン＝ラジャバト大学 / Phranakhon Grand View ホテル<br>会議室   |
| 4 | 使用言語   | 英 語  |
| 5 | 主 催    | 日本保健医療行動科学会<br>「地球環境と世界市民」国際協会   |
| 6 | 実施主体   | 第5回国際保健医療行動科学会実行委員会  |
| 7 | 共 催    | プラナコーン＝ラジャバト大学(タイ)   |
| 8 | 協 力    | チュラロンコン大学(タイ)  |
| 9 | 後 援    | 国際社会学会, 日本保健医療社会学会, 日本精神保健社会学会, ヘルスカウンセリング学会, 日本予防医学協会, 日本代替・相補・伝統医療連合会議, 日本統合医療学会, ホリスティック医学協会, 日本歯科医師会, 日本看護協会, 日本ホスピス在宅ケア研究会, 在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク, アジア・太平洋地球変動研究ネットワーク(A P N), 財団法人地球環境戦略研究機関( I G E S )関西研究センター, 日本環境教育学会関西支部(後援申請中の団体を含みます) |

## プログラム(予定)

日程	会議内容	会場
8月16日(水)	タイ・バンコク:ドン・ムアン空港着	
8月17日(木)	エクスカーション:ピハラー(終末期患者のための仏教系医療施設)訪問	バンコク市内
8月18日(金)	8:00-9:00 開場・受付 9:00-9:30 オープニング・セレモニー ● プラナン・キトラットポーン(タイ/プラナコーン=ラジャバト大学学長) ● 宗像恒次(第5回国際保健医療行動科学会議会議長) 10:00-12:00 記念講演 ● 渥美和彦(日本統合医療学会理事長) 「統合医療の国際的動向と代替・相補医療(CAM)の総合的研究」 ● ナンシー・ターナー(カナダ/ヴィクトリア大学教授) 「環境教育と統合医療-カナダ・ファーストネーションによる民間療法をめぐって-」 12:00-13:30 昼食休憩 13:30-15:30 研究発表・ポスター発表 A 分科会:保健医療セッション(口頭発表) B 分科会:環境教育セッション(口頭発表) 15:30-16:00 休憩 16:00-18:00 C 分科会:保健医療ポスターセッション(ポスター発表) D 分科会:環境教育ポスターセッション(ポスター発表) 18:30-20:30 ウェルカム・パーティ	PHRANAKHON GRAND VIEW Hotel 会議室
8月19日(土)	9:00-10:00 開場・受付 10:00-12:00 基調講演 ● 宗像恒次(日本/筑波大学大学院教授) 「統合保健医療における依存と自立-がんの心理社会的教育とサポートの探求-」 ● 谷口文章(日本/甲南大学教授) 「生命と環境をめぐる倫理と教育の展望」 13:30-16:00 昼食休憩 シンポジウム「健康と環境の教育 統合医療と環境教育-」 コーディネーター: 藤崎和彦(日本/岐阜大学教授)[保健医療] ラダワン・カンハスワン(タイ/プラナコーン=ラジャバト大学環境教育センター顧問) 【環境教育】 シンポジスト: ● 渥美和彦(日本/東京大学名誉教授) ● ナンシー・ターナー(カナダ/ヴィクトリア大学教授) ● 元村直靖(日本/大阪教育大学教授) ● シリワット・スングロトック(タイ/プラナコーン=ラジャバト大学EECセンター長) ● 白郁華(中国/北京大学教授) ● 今井佐金吾(日本/広島修道大学教授) 16:00-16:30 休憩 16:30-18:30 サテライト・シンポジウム【第一部】 A-1 分科会(保健医療セッション)行動変容についての実践的研究 コーディネーター:柳井 勉(関西福祉科学大学教授) ● 岡 美智代(北里大学助教授) 「慢性疾患患者の行動変容」	PHRANAKHON GRAND VIEW Hotel 会議室

- 橋本佐由理(筑波大学大学院助教授)  
「高齢者の健康運動行動の遠隔カウンセリング支援」
  - 楡木満生(立正大学教授)  
「ナラティブ分析を用いた病院内 QOL の変容」
  - 交渉中(タイの研究者、もしくは実践家)  
「患者・高齢者へのマッサージによるケア」
- B-1 分科会(環境教育セッション)環境教育教材の共有化をめぐるーアジア環太平洋地域の国際環境教育ガイドラインの構築 【アジア太平洋地球変動研究ネットワーク 協力】
- コーディネーター: アジザン・パハルディン(マレーシア/マラヤ大学教授)  
ナンシー・ターナー(カナダ/ヴィクトリア大学教授)
- シリワット・スダロトック(プラナコーン=ラジャバト大学 EEC センター長)  
「農学の立場からの環境教育教材と持続可能な農業について」
  - ジャリヤ・ブーンジャワット(チュラロンコン大学教授)  
「タイにおける環境教育教材と環境科学の展開」
  - 白郁華(中国/北京大学教授)  
「環境科学における環境教育教材と中国における環境教育政策の取組」

8月20日(日)	9:00-10:00	開場・受付	
	10:00-12:00	サテライト・シンポジウム【第二部】	
		<u>A-2分科会(保健医療セッション)当事者参加のヘルス・プロモーション</u>	
		コーディネーター: 仲尾唯治(山梨学院大学教授)	
		● 藤崎和彦(岐阜大学教授) 「住民参加によるヘルス・プロモーションの計画作り」	
		● 高橋裕子(奈良女子大学教授) 「禁煙マラソンにみる当事者参加」	
		● 小堀栄子(京都大学) 「タイ北部少数民族における当事者参加 HIV / AIDSをめぐるー」	
		● クリアンクライ・チャイマウンディー(タイ・ライフ・スキル開発財団理事長) 「アドボカシーと当事者参加の保健行動 HIV / AIDSをめぐるー」	
		<u>B-2 分科会(環境教育セッション)国営公園における環境教育の導入ーe-ラーニングによるタイ・日本の学術交流</u> 【国土交通省国営明石海峡公園事務所 協力】	
		コーディネーター: ラダワン・カンハスワン(プラナコーン=ラジャバト大学 EEC 顧問)	PHRANAKHON GRAND VIEW Hotel 会議室
		● チナタ・ナガシンハー(プラナコーン=ラジャバト大学 EEC 副センター長) 「タイの国立公園にみる環境保全と生物多様性の保護について」	
		● 岩館知哉(国土交通省国営明石海峡公園事務所課長) 「日本の国営公園にみる環境マネジメントと市民参画事業の展開」	
		● 今井佐金吾(広島修道大学教授) 「国立公園利用と環境マネジメントシステムについて」	
		● 谷口文章(甲南大学環境総合研究所長) 「国営公園における環境教育の導入とその展開について」	
	12:00-13:30	昼食休憩	
	13:30-15:00	ワークショップ(各セッション: 3時間)	
		ワークショップA: 保健医療セッション「民間療法(マッサージ)」	
		*コーディネーター: 日本保健医療行動科学会(交渉中)	
		ワークショップB: 環境教育セッション「マングローブ植林と環境教育実践」	
		*コーディネーター: 「地球環境と世界市民」国際協会(交渉中)	
	15:00-15:30	休憩	
	15:30-17:00	ワークショップ(続)	

	18:00-20:00	フェアウェル・パーティ	
8月21日(月)		【午前】 オプショナル・ツアー (バンコク観光) 【21:00】 タイ・バンコク:ドン・ムアン空港(22日早朝:帰国)	バンコク市内

エクスカーション	1	予定日時	2006年8月17日(木) 10:00~18:30
	2	参加費	5,000円/人
	3	内容	ピハーラ(終末期患者のための仏教系医療施設)訪問 HIV感染者などの終末期患者のための医療施設を訪問し、タイにおけるターミナルケア、スピリチュアルケアについて学ぶ

## サテライト・シンポジウム

### A-1 分科会【保健医療セッション】行動変容についての実践的研究

患者は、主体的に自分で病気を選択するのではなく、ある日突然「病」を得て、やむを得ず患者の立場になるのである。したがって、多くの患者は自分の身にふりかかってくる病をどのようにとらえたらよいかわからずに苦悩するのである。しかし、医療者の立場から言えば患者が治療に協力するのは当然であると思いがちである。ここが患者と医療者の意識のギャップがおきやすいところである。実際、高齢者や慢性疾患の入院患者に対しては、健康生活習慣を日常生活に取り入れれたり、入院中の生活習慣を身につけたりして主体的に病と正面から向き合い、自ら治ろうとする意志をもって栄養や運動に努力することが求められる。

今回のシンポジウムでは、高齢者や慢性疾患患者がどのように病と主体的に行動変容を起こすことができるようになったかについての実践例を報告したい。 キーワード：行動変容/保健医療行動/健康増進/高齢者/慢性疾患患者

### A-2 分科会【保健医療セッション】当事者参加のヘルス・プロモーション

近年の保健医療分野におけるさまざまな営みの中で、最も注目されているもののひとつに「当事者参加型のヘルス・プロモーション」をあげることができる。市民としての患者を、単に保健医療サービスの受益者として一方的に位置づけるのではなく、むしろ提供者の枠組みの中にも位置づけ、その力を借りながら受益者のニーズに基づいた保健医療サービスの提供をしようとする視点といって良い。

本部会では<当事者参加>をキーワードに、現在保健医療分野における重要な課題となっているものの中から、禁煙・HIV/AIDSをめぐる問題を取りあげ、それらが「当事者参加」によってどのような治療的・予防的効果をもたらしているか、さらには健康増進に繋がっているかについて現状と課題をめぐって議論を深める。このシンポジストとして、日・タイ両国の研究者のみならず、実務家・NPO 活動家にも参加してもらうことによって、より議論が活性化することをねらっている。 キーワード：当事者参加・アドボカシー・保健行動・健康増進・マイノリティ・HIV/AIDS・村おこし・禁煙・保健計画

### B-1 分科会【環境教育セッション】環境教育教材の共有化をめぐる アジア環太平洋地域の国際環境教育ガイドラインの構築

環境教育の研究については、「環境教育学」が必要といわれながらも、十分に理論化されていない現状が指摘される。環境教育学を体系化するためには、環境教育の用語と教材を「共有化」することによって、それらが個々の専門分野との架け橋として「スタンダード化」される必要がある。その上で、環境倫理および国際的な宣言や憲章などにもとづいた「国際的なガイドライン」の枠組みの構築が求められている。そのために、アジア・環太平洋地域において、環境教育の主体的で柔軟な教材開発・人材育成のための枠組みを開発することを目的としながら、具体的にどのような地域にも妥当する環境教育の推進を支援するような教材の開発と共有化をめざし、国際的・学際的交流を深める。なお、本事業はアジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN) CAPaBLE 事業との共催で行なう。 キーワード：用語と教材の共有化/スタンダード化/ガイドライン/ネットワーク/アジア・環太平洋地域

### B-2 分科会【環境教育セッション】国営公園における環境教育の導入 e-ラーニングによるタイ・日本の学術交流

2005年より、「国連持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)の10年」がはじまり、環境教育のみならず、開発教育・平和教育・人権教育・ジェンダー教育・福祉教育・多文化共生教育など異なる学問分野からなる教育が必要とされている。環境教育の目的は、環境問題を解決するための教育を行なうという直接的なものではなく、「教育の本質」としてまず心豊かな子どもや若い世代を育成することである。そのために、各主体に応じた市民参画型の環境教育によって、自然や社会や心の環境問題に対

して積極的かつ主体的な行動をとる若者の育成が重要である。本分科会では、特に国土交通省の国営公園において展開される環境教育の導入の方法とその可能性について、TV会議システムによって日本と結び国際的・学術的交流を深める。 キーワード：ESD / 心の環境 / 教育の本質 / 国立・国営公園 / e - ラーニング

---

## ワークショップ

A 分科会：保健医療セッション「民間療法（マッサージ）」

協力：タイ保健省 伝統医療局

B 分科会：環境教育セッション「小中高等学校における科学教育と環境教育教材デモンストレーション」

川西寿美子（明浄学院高等学校教諭）ラダワン：カンハスワン（プラナコーン大学環境教育センター顧問）

---



# 分科会発表要旨募集テーマ・キーワード

- 口頭発表 / ポスター発表 -

(保健医療に関するキーワード)

健康のための統合的アプローチ  
医療倫理  
生命倫理  
生命倫理綱領 / 国際宣言  
ホリスティック医療  
予防的健康行動  
健康と病気の心理社会的要因  
ナラティブ / 健康と病気をめぐるコミュニケーション  
ストレスとコーピング  
東洋と西洋の医療ケア  
セルフケア行動  
WHO / 国際協力  
精神保健  
ヒューマン・セクシャリティ / ジェンダー  
健康をめぐる介入の行動科学的技術と教材  
生と死の価値  
医療人類学 / 健康社会学 / 健康心理学  
高齢者・障害者の健康  
健康行動科学の理論と歴史  
看護・福祉教育  
保健医療システム / 保健医療政策  
学校と健康  
ヒーリング  
代替・相補医療(CAM)  
統合医療  
自然治癒力  
健康教育  
クオリティ・オブ・ライフ(QOL)  
ポートフォリオ  
インフォームド・コンセント / 自己決定  
健康生成  
生活習慣病  
宗教

(環境に関するキーワード)

環境教育のための総合的・統合的アプローチ  
環境モラル / 環境マナー  
環境倫理  
環境教育ガイドライン / 国際環境宣言  
ホリスティック教育  
防災教育と環境教育  
環境破壊の社会的要因と環境保全政策  
人間と自然とのコミュニケーション  
持続可能な開発のための教育(ESD)  
先住民とディープエコロジー  
主体的環境活動 / 指導者養成  
UNESCO / UNEP などを通じた国際ネットワーク  
心豊かな感性  
エコフェミニズム / ジェンダー  
環境教育カリキュラム / プログラム / 教材  
生物多様性と多元的価値観  
民族植物学 / 生態系 / 地球環境  
生涯学習 / 市民参画 / パートナーシップ  
生態系と環境思想史  
環境ボランティア / 貧困 / 平等 / 差別  
環境アセスメント  
学校・社会教育における環境教育  
動植物の観察 / 食農教育  
伝統文化の保存と継承  
統合教育  
自然治癒力(自然浄化力)  
生命の教育  
環境とライフスタイル  
環境教育の評価方法 / ポートフォリオ  
省資源・省エネルギー  
自己組織性  
公衆衛生 / ウィルス感染症  
宗教

第5回国際保健医療行動科学会は幅広い分野より参加者が議論を深め、交流をはかる場です。学術研究者のみならず、医師、看護師、介護士、福祉士、行政担当者や一般の方からも広く発表を募集します。また人文科学・社会科学・自然科学の幅広い領域ならびに複合領域からの発表についてもご応募をお待ちしております。

発表を希望される方は、以下の要項にしたがって「発表要旨」を提出してください。第5回国際保健医療行動科学会議では、若手研究者の発表も積極的に採用する予定です。ご自身の研究活動を発表する良い機会として、また、この分野にかかわる多くの方々との交流の機会として、ふるってご応募ください。

提出にあたっての注意事項 ご提出は日本保健医療行動科学会のホームページの利用または郵送に限ります

1. 参加登録（登録料等の支払いを含む）は必ず2006年5月31日（水）までに完了してください。
2. 発表者はなるべく全日登録で申し込んでください。
3. 発表内容は過去の国際会議等で未発表であるものに限りません。
4. 発表要旨は、原則として英文で提出してください（英文で要旨提出が困難な場合は和文でも受け付けます。ただし採択された場合、英文要旨を提出していただきます。）
5. ファクシミリによる受付は致しませんので、予めご了承ください。

ホームページを利用する場合

学会事務局 URL : <http://homepage1.nifty.com/jahbs/>

実行委員会 URL : <http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/>

日本保健医療行動科学会ならびに第5回国際保健医療行動科学会議実行委員会ホームページから発表要旨の提出ができます。  
ホームページ上の案内にしたがって、ご送付ください。

郵送の場合

発表申込書（Form A-2）の記入方法

本誌に添付されている発表申込書（Form A）発表要旨記入例（Form A-3）をご利用ください。

- (1) 記入欄すべてに必要な事項を明記してください。発表を希望するテーマについては、8ページに記載されているテーマを参照しながら記入・選択してください。第1希望から第3希望まで必要に応じて記載ください。
- (2) 発表内容を簡潔に表現するキーワード（5個程度）を記入してください。
- (3) 発表形式については、口頭（オーラル）、ポスターのいずれかを選択してください。

発表要旨の記入方法

別紙記入例（Form A-3）を参考にし、下記の点を留意しながら作成してください。

- (1) 発表要旨のタイトル 大文字（例：ABC）太字でご記入ください。
- (2) 著者名（共同著者名） Family Name, First Name・(Middle Initial) の順でご記入ください。共同発表になる場合には、発表（代

- (3) 所 属 表) 者にアンダーラインを引いてください。  
著者名 (共同著者名) の次の行に記入してください。  
発表者のみ所属の都市名、国名も記入してください。
- (4) 発表要旨 (本文) 英文: 450 語以内、11 または 12 ポイント  
Times (もしくは類似したフォント) 行間なし  
和文: 1600 字以内、11 または 12 ポイント  
明朝体 (もしくは類似したフォント)  
\* 英文・和文要旨両方を御提出ください。
- (5) 左上の網掛けスペース 事務局使用欄サイズ: 25mm × 35mm  
(プログラム番号を記入しますので、空白のままご提出  
ください。)

白の上質紙 (A4 サイズ) に上下左右 25mm の余白を残して作成してください。  
提出された発表要旨は、当日参加者に配布される発表要旨集の印刷原稿となります。  
提出後は、内容の変更や字句の訂正などには応じられない場合がありますので、ご了承  
ください。

送付物	発表申込書 (Form A-2)		1 部
	発表要旨	英文	1 部
	発表要旨	和文	1 部
	上記 のコピー	各	3 部
	上記 のデータを入れたフロッピーディスク		

\* 用紙全体 (A4 サイズ) をコピーしてください。  
\* マイクロソフトワードあるいは、プレーンテキスト

\* 書類保護のため、保護用紙 (厚紙など) を同封してください。

送付先 第 5 回国際保健医療行動科学会議実行委員会事務局  
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8 - 9 - 1  
甲南大学文学部 谷口文章研究室気付

---

受付確認書 発表要旨受付後、受付確認書を郵送・ファクシミリまたはメールでお送りします。  
発表要旨の提出後、一ヶ月を過ぎても受付確認書が送られない場合は、事務局まで  
直接お問合せください。

---

審査結果の通知 応募された発表要旨は、第 5 回国際保健医療行動科学会議実行委員会で公正な審査  
の上、採否を決定致します。また、発表要旨を提出された方には、2006 年 6 月 20  
日までに採否の結果を郵送でお知らせ致します。  
採用された方には、発表方法のご案内をお送り致します。提出された発表要旨は、  
採否の如何にかかわらず返却致しませんので、ご了承ください。

---

プロシーディング  
の刊行 会議開催後、「第 5 回国際保健医療行動科学会議プロシーディング」を刊行の予定で  
す。詳細につきましては、後日発表者にご案内致します。

---

## 参加登録のご案内

一次登録締切：2006年5月31日（水）

二次登録締切：2006年7月31日（月）

第5回国際保健医療行動科学会議に参加を希望する方は、原則として事前に参加登録をしてください。参加登録は学会事務局ならびに実行委員会事務局ホームページ、参加登録用紙（Form B）により郵送で行なうことができます。参加の方法は、原則として会議の全プログラム（パーティ、ツアーを除く）に参加できます。登録の申込日によって、以下のとおり参加登録料が異なりますのでご注意ください。

### 参加登録料

区分	一次登録	二次登録
	2006年5月31日まで	2006年6月1日から7月31日まで
一般会員	20,000円	25,000円
学生会員	10,000円	15,000円
非会員	22,000円	27,000円
エクスカーション	5,000円	
オプションツアー	5,000円	
ウェルカムパーティ	3,000円	
フェアウェルパーティ	3,000円	

8月1日以降の銀行口座への入金の確認できませんので、当日会場にて参加登録ならびに支払手続きをお済ませください。

一次登録（2006年5月31日締切）の場合、宿泊先は会場となりますホテルを事務局で斡旋致します（但し、宿泊費用は各自負担となります。また原則として16日～20日の予約となります。それ以外のご予約は各自で行なってください）。二次登録（2006年6月1日）以降は各自で宿泊先の予約を行なってください。

登録料のなかには、渡航費・宿泊費・食費は含まれておりません。

### 参加登録料以外に別途料金が必要なもの

	月日	会議内容	参加登録	料金
会議への参加	8/17	エクスカーション		¥5000
	8/18	オープニング・セレモニー		
		記念講演 研究発表・ポスター発表		
		ウェルカム・パーティ		¥3000
8/19	基調講演 シンポジウム			
	サテライト・シンポジウム			
8/20	ワークショップ			
	オプションツアー（バンコク市内観光） フェアウェル・パーティ	-		¥5000 ¥3000
資料		発表要旨集（プログラム）一部		¥2000



## 会場のご案内・交通アクセス

### 会場案内図



### PHRANAKHON GRAND VIEW Hotel –BANGKOK-

3 Chaengwattana Road, Bangkok 10220  
TEL: 521-7900 FAX: 521-7908

タイ国際空港(ドンムアン空港)より車で15分

# 実行委員会名簿

大会長	宗像 恒次	筑波大学大学院教授	
大会委員長	谷口 文章	甲南大学教授・甲南大学環境総合研究所所長	
副大会委員長	Jariya BOONJAWAT	チュラロンコン大学教授	
	Siriwat SOONDAROTOK	プラナコーン=ラジャバト大学環境教育センター・センター長	
事務局長	Chinatat NAGASHINHA	プラナコーン=ラジャバト大学環境教育センター・副センター長	
<b>実行委員</b>			
朝倉 隆司	東京学芸大学	橋本 尚子	追手門学院大学
梓川 一	千里金蘭大学	長谷川 浩	東海大学
石井 豊子	ホリスティック統合医療研究所	花家 薫	堺市健康部健康増進課
逸見 功	日本赤十字看護大学	服部 素子	神戸市看護大学
稲岡 文昭	日本赤十字広島看護大学	羽山由美子	大阪府立看護大学
上杉 裕子	神戸大学	東山 明子	関西福祉大学
岡 美智代	北里大学	久村 正也	札幌心身医療研究所
大芦 治	千葉大学	日野原重明	聖路加看護大学
小田 博志	北海道大学大学院	平 英美	滋賀医科大学
柿川 房子	新潟県立看護大学	平岡 昌典	平岡歯科医院
戈木ルイカ 滋子	首都大学東京	藤内 修二	社団法人地域医療振興協会
紙野 雪香	大阪大学	藤崎 郁	大阪大学大学院
川中 絢子	大阪回生病院	藤崎 和彦	岐阜大学
河村 誠	広島大学歯学部附属病院	本庄 恵子	日本赤十字看護大学
紺井 弘隆	大阪歯科大学	三浦 秀史	慶応義塾大学 S F C 研究所
島井 哲史	神戸女学院大学	道信 良子	札幌医科大学
諏訪 茂樹	東京女子医科大学	宮地 建夫	鉄鋼ビル歯科
高橋 裕子	奈良女子大学	村田 正章	兵庫医科大学
谷 荘吉	小松病院	元村 直靖	大阪教育大学
玉木 敦子	兵庫県立大学	森岡 正芳	奈良女子大学
中井 吉英	関西医科大学	守本とも子	奈良県立医科大学
仲尾 唯治	山梨学院大学	柳井 勉	関西福祉科学大学
中川 晶	大阪産業大学	山内 祐一	宮城中央病院
中木 高夫	日本赤十字看護大学	山崎久美子	早稲田大学
中島紀恵子	新潟県立看護大学	吉岡 隆之	神戸市看護大学
中西 睦子	国際医療福祉大学	吉田登志子	岡山大学大学院
波平恵美子	お茶の水女子大学	吉村 雅世	奈良県立医科大学
榆木 満生	立正大学	渡辺 りわ	甲南大学
野原 忠博	杏林大学	Pornsuk HUNNIRUN	スリナカリンウィロット大学
橋本佐由理	筑波大学大学院		

## 第5回国際保健医療行動科学会 議実行委員会 事務局

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1  
甲南大学文学部 谷口研究室気付  
TEL・FAX : 078-435-2368  
E-mail:fumiaki@konan-u.ac.jp  
<http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/>



日本保健医療行動科学会事務局

〒272-0021 市川市八幡 2-6-18-501  
TEL047-332-0726  
FAX 047-332-5631  
<http://homepage1.nifty.com/jahbs/>

